

令和6年度 学校経営計画

四條畷市立忍ヶ丘小学校
校長 上井 大介

1 学校経営方針

○令和4年1月に策定の「四條畷市教育振興基本計画」の基本理念は「みんなの学びが叶うまち ～生涯学び 夢 挑戦～」とされており、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」と示されている。この基本理念の実現に向けて、学校においては、今を生きる子どもたちの未来を見据え、「学び方を学ばせる」、「学ぶ力や学ぶ意欲、学ぶ楽しさを体感させ、身に付けさせる」ことがミッションであると考えている。

○このことを背景に、本校学校教育目標は四條畷中学校区の合言葉を参酌のうえ、教職員間の議論を経て、★畷中学校区の合言葉 3つの「るるる」

・ねばーる（自分と向き合う力）・やってみーる（自分を高める力）・つながーる（他者とつながる力）

★令和6年度【学校教育目標】

「みんなで つくる 楽しい忍小 ◇挑戦しよう！ ◇つながろう！ ◇学び続けよう！」

とした。授業等のすべての学校教育活動のなか、あらゆる場面において、子どもたちが「主体的に考え行動する『生きる力』を育む教育の推進」を図る。子どもたちには、まず「夢」を持ち、その実現に向け、自分を高めるために挑戦し、仲間や周囲とつながり、主体的に学び続ける子どもの育成に努める。

○この目標を達成するための具体的な方策として、以下を挙げる。

①「あいさつ」がしっかりできることを掲げたい。仲間や先生、地域の方々と、学校でも地域でも家庭でも、「おはようございます」等、様々な「あいさつ」を通して、つながりを大切にしてほしい。そして、子ども同士はもとより、教職員間、教職員と保護者、学校と地域など様々な関係において「つながり」を意識した取組みを推進していく。

②「ありがとう」という感謝の気持ちと周囲を気遣える「やさしい」気持ちを持ってほしい。良好なつながりを築くため、「ありがとう」や気遣い心遣いを通して、つながりを深め、安心感を持たせたい。

③安心感の上に「チャレンジ」する気持ちを持たせたい。「失敗や間違いは恥ずかしいことではなく、成長の大きな一歩であること」を浸透させ、何事にも挑戦する意欲を持たせ自己肯定感醸成につなげたい。

以上、自身も他者もともに成長できる学校を創造するとともに、そのような子どもたちの育成に関わる教職員、保護者、地域の方々にも、これら方針のもと、取り組める仕掛けづくりを進めていく。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	○子どもたちも おとなも よりよい自分 よりよいつながり を育む学校
★めざす子ども像	○よりよい自分・学び・つながりをめざし、チャレンジする子 ○自分や友だちを大切にし、つながる子 ○主体的に、楽しく学び続ける子
★めざす教師像	○「楽しい学校」の創り手として、役割を自覚し、主体的に実施する教師 ○ことばを大切にし、子どもたちの育ちを支える教師 ○強みを生かし、弱みを支え合う 成長し続ける教職員集団

3 学校の現状（よさと課題）

（1）子どもたちの実態

本校の子どもたちは、学習面ではまじめに取り組み、課題には真摯に向き合い、答えを見いだそうとする姿が見られる。しかし、失敗やまちがい、できないことなどに対する不安が高く、主体的に行動したり、挑戦したりすることができにくい傾向にある。挑戦してみようとする安心感と場があれば力を発揮し、やりきろうとするが、失敗やまちがうことを避けようとするために、一步踏み出すことを躊躇する姿も見受けられる。子どもたちが挑戦してみようという気持ちにある安心感や持てる力を発揮できる場を用意し、できる自分に自信を持ち、自己肯定感を徐々にでも高めることが大切と考える。

また、人に対して思いやりを持った行動ができる子どもの姿があるものの、個の考えや意見を主張するが故に対立したり、折り合いがつけられず自己解決できなかつたりする状況も見受けられる。子どもたちも自ら相手を理解し、折り合いをつけ、共に進んでいくための力を身に付けていく必要がある。そのために、子どもが周囲の仲間への関心や意識を持ち、考えがぶつかった際も話し合いをとおして、双方の意見を交流させ、折り合いをつける経験を積ませたい。その結果、不登校児童数やいじめ事案の減少につなげたい。

（2）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校は四條畷市の東側、自然豊かな環境に立つ。1973年(昭和48年)、児童数増加に伴い、四條畷市立四條畷小学校から分かれ、開校した。校区内は、閑静な住宅地とJR忍ヶ丘駅を中心とした商業中心の地域があり、住みよい環境にある。地域の教育に対する関心は比較的高く、学校教育活動には注目が集まる。一方で、子どもたちが考え行動する前に、大人によって失敗のないレールを敷いてしまう傾向も見受けられる。子どもたちに任せ、考えさせ、様々な経験をさせる意識を高めたい。

また、子どもたちの多くが進学する四條畷中学校とは敷地が隣接し、小中連携棟を介してつながっている。両校の教職員が行き来することが増え、不必要な段差のない進学を意識した連携が実現しつつある。この環境は強みであり、今後もこの好環境を大いに活用した取組みにつなげたい。

②地域

校区は岡山自治会という一つの自治会下にある。永く岡山地区に居住されている方と、新しく住まいを構える方が混在し、歴史を守りながら新しいつながりを築こうとする取組みが、地域の各団体によって企画運営され、街づくりを行っている。学校や教育全般に概ね協力的であり、子どもに対する働きかけも積極的である。反面、地域や保護者間のつながりにおいて二極化を感じる。子どもの成長に対する期待が大きい反面、あらゆる事象に対する反応や答えを急がれたり、白黒をはっきりと求められたりする傾向が増えていくように感じる。

③組織（教職員、PTA、保護者）

本校教職員は様々な取組みを通して、組織的に動くことや協働して取り組むことを経験することができた。中でも支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会やケース会議は、組織運営の大きな柱を担った。また、子どもや保護者に対して、適切な距離感で寄り添い、熱心に取り組める。問題行動等に係る子どもへの指導も教師の感覚による一方的な指導ではなく、子どもの話をしっかりと聞き、安心感を持たせながら、解決に向かう意識が高い。

PTAは学校運営や学校行事等に関し、理解を示していただいている。常に役員会等において、情報共有しながら、進めることができる素地がある。

保護者も子育てについて、熱心に関わっていただける家庭が多い。一方で昨今の社会情勢と同様に「こうあるべき」という考えを持つ傾向が見られる。近年は保護者の多忙な実態やつながりの欠如も相まって、子育てに悩まれるなか、外部機関につながる家庭が増える傾向にある。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）	
<p>教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの実現等を主眼に置いた学習指導要領の確実な実施に向け、「確かな学び」の定着を図るとともに「生きる力」を育む指導を行う。</p> <p>①「豊かな心の醸成」</p> <p>子どもが夢を持ち、子どもの安心・安全の確保を最優先に置いた学校運営に努める。あいさつなど他者との関わりを通して「つながり」を意識し、「自己肯定感や自己有用感の醸成」を図る。</p> <p>②「確かな学力の育成」</p> <p>研究教科を国語科とし、「説明力」の育成に努める。また、タブレットPCを活用した授業を推進し、授業改善をめざす。</p> <p>③「健やかな体の育成」</p> <p>「体力づくりアクションプラン」に基づき、児童の体力向上に資する取組みを充実させるとともに、健康に関する指導や食育の推進を図り、命や健康を大切にすることを育む。</p>	<p>① 学校教育自己診断、児童保護者教職員アンケート（3学期分）</p> <p>A（児）「自分から進んであいさつしている」（R5/68%）</p> <p>B（児）「自分にはよいところがあると思う」（R5/75%）</p> <p>C（児）「人の役に立つ人間になりたいと思う」（R5/93%）</p> <p>D（児）「将来の夢や目標を持っている」（R5/80%）</p> <p>E（児）「先生は、いじめなど自分が困っているときに真剣に対応してくれる」（R5/87%）</p> <p>F（児）「自分が苦手なことやできないことにもチャレンジするようにがんばっている」（新設）</p> <p>G（児）「新しいことを学ぶことや知ることは楽しい」（新設）</p> <p>H（児）「学校は楽しく安心できる」（R5/82%）</p> <p>② 学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート（3学期分）</p> <p>A（児）「授業はわかりやすく楽しい」（R5/85%）</p> <p>B（児）「国語の学習は好きですか」（R5/53%）</p> <p>C（児）「書くときや話すときに、説明力を意識するようになってきましたか」（R5/73%）</p> <p>D（児）「自分で計画を立てて勉強をしていますか」（R5/66%）</p> <p>E すくすくウォッチ「わくわく問題」の正答率</p> <p>F 全国学力・学習状況調査の正答率</p> <p>G 標準学力検査（NRT）の正答率</p> <p>H（保）（児）（教）「タブレットPC等ICT機器を活用した授業」に関する質問（R5/児92%、保69%、教94%）</p> <p>③ 学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート（3学期分）</p> <p>A（児）「運動することは好きですか」（新設）</p> <p>B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査</p> <p>C（児）「給食の時間は楽しみだ」（R5/82%）</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①「豊かな心の醸成」	<p>A 80%以上</p> <p>B 80%以上</p> <p>C 90%以上</p> <p>D 85%以上</p> <p>E 85%以上</p> <p>F 80%以上</p>	<p>・全校集会や各行事等取組みでの講話や評価での意識向上「あいさつ」「やさしい」「チャレンジ」</p> <p>・学校だよりやその他の機会を通して、家庭や地域へも方針を伝えるよう発信し、ベクトルを揃える。</p> <p>・児童が自ら考え中心となる学校行事や学年、学級の取組み等を通して、自己肯定感や自己有用感、人の役に立つ喜</p>

	G 80%以上 H 85%以上 ※肯定回答	びや心地よさを体感 ・道徳やキャリア教育を通して、将来の夢や目標を明確に 持てるような取組みを推進
②「確かな学力の育成」	A 85%以上 B 70%以上 C 75%以上 D 70%以上 E 府平均以上 F 全国平均 G 全国平均 H 児 90%以上 保 75%以上 教 95%以上 ※肯定回答	・年3回の校内研究授業の推進 ・国語の学習における説明力の育成について →「説明力とは」 子どもたちにつけたい説明力につ いて教職員の共有を図る。 →校内研究授業において、説明力育成をめざす取組みの 提案及び協議会 ・「説明力」を他教科等で活用する場の設定 →子どもたちが国語以外の教科学習や総合的な学習の時 間などで、誰かに説明する場を設定し、国語の学習事 項を活用し、できたことを振り返る。(振り返り活動) →授業において、子どもたちが説明することを通して、 考えを耕したり、広げたりする授業づくりを行う。
③「健やかな体の育成」	A 80%以上 B 全国平均 -1ポイント C 85%以上 ※肯定回答	・体育科授業の充実 ・体育委員会、給食委員会等の活動を通して、運動や食に 興味を持つ子どもの育成に資する取組みを推進 ・保健室からの児童、保護者等への情報発信により家庭と 一体となった健康教育の推進

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
<p>教職員一人ひとりが明確なミッションのもと、やりがいと創造力をもって担当に当たれるよう適材適所を意識した学校組織体制を構築とともに、質の高い学校運営をめざす。</p> <p>① 「良好な学校組織の在り方」 管理職、教務主任、各部長、ブロック代表者等によるブロック長会議を効率的に開催するとともに、都度学校長のビジョンを明確に示しつつ、円滑な学校運営の推進を図る。</p> <p>② 「同僚性」 教職員間で「認め合い、支え合い、助け合い」の意識のもと、組織を超えたサポート体制がとれるよう意識醸成を図り、温かく風通しの良い職場環境をめざす。</p> <p>③ 「教職員の資質能力の向上」 支援教育の視点を取り入れた授業づくり、コミュニケーションの構築等、取組みの推進</p>	<p>① 学校教育自己診断等 教職員アンケート（3学期分） A 「学校長の示すビジョンが明確ですか」（新規） B 「学校運営の状況や課題を全教職の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」（R5/100%）</p> <p>② 学校教育自己診断等 教職員アンケート（3学期分） A 「学校は楽しく安心できる場所である」（R5/82%） B 「認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境の雰囲気がありますか」（新規）</p> <p>③ 学校教育自己診断等 教職員アンケート（3学期分） A（教）「特別支援教育の視点から、指導上の工夫（板書の説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」（R5/100%） B（児）「先生はあなたの良いところを認めてくれますか」（R5/83%）</p>

を図る。相手が大人でも子どもでもまずは安心できる言葉かけやフォローに努めながら、必要な指導を行う意識を確立させたい。		
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
① 「良好な学校組織の在り方」	A 70%以上 B 30%以上 ※最肯定回答	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の教職員参画による設定を行う。 ・ブロック長会議及び職員会議や各種会議等において、教職員向け校長だより「TEAM★忍小」を活用するなどして、学校長からのビジョンを明確でわかりやすく共有 ・学校教育目標に基づいた取組みになるよう、取り組む集団の単位で目標や期待する児童の変容を明確にし、また到達度から児童の変容を見だし、次の取組みに生かす等PDCAを回しながら取組みを積み重ねていく。 ・授業に関しては、教職員間で十分に検討するよう場の工夫を行う。特に、研究授業や公開授業の機会をいかすようにする。
② 「同僚性」	A 70%以上 ※肯定回答 B 80%以上 ※最肯定回答	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長として、全職員とのコミュニケーションを図るよう努め、些細なことでも「ありがとう」を意識 ・職員室での立ち話で交流等、適宜、教職員とのコミュニケーションを図る。 ・職員室は一つの学級との意識のもと、常に教職員の行動には気配り、目配り、心配りを行う。
③ 「教職員の資質能力の向上」	A 80%以上 ※最肯定回答 B 90%以上 ※肯定回答	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長のビジョン及び発信のもと、支援教育Co等担当者からの発信及び研修の企画立案 ・児童への共感や安心感を与える関わりの共有 ・発達段階に応じた子どもの特性や子ども理解の研修実施

目標設定区分3 『人の管理・育成』	
A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
<p>教職員の資質向上とキャリアステージに応じた人材育成に重点を置く。</p> <p>① 「教職員の資質能力の向上」 教職員の人権意識の醸成や資質向上を図り、児童や保護者、地域から信頼される組織化された教職員集団をめざす。</p> <p>② 「キャリアステージに応じた人材育成」 次期管理職候補、学校教育活動全体の向上を図るミドルリーダーの育成に注力する。</p> <p>③ 「持続可能な指導体制の整備」 教職員の働き方改革も踏まえ、各取組みや</p>	<p>① 学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート（3学期分） A（保）「子どもにとって学校は安心できる楽しい場所である」（R5/88%） B（保）「担任等はお子さまの気持ちをよく理解している」（R5/90%） C（児）「学校は楽しく安心できる場所である」（R5/82%）</p> <p>② 次期管理職候補、首席及び指導教諭等ミドルリーダーに位置する受験者の推薦</p> <p>③ 学校教育自己診断等 教職員アンケート（3学期分） A（教）教職員の時間外勤務実態（R5/平均31H/月※3月） B（教）「授業準備や子どもと向き合える十分な時間が確保</p>

会議等がより効果的かつ効率的に進むよう、組織化された会議の運営を模索する。	できるよう組織として対応できる環境が整っている」(新設)	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
① 「教職員の資質能力の向上」	①A 85%以上 ①B 90%以上 ①C 85%以上 ※肯定回答	・日頃から教職員とコミュニケーションを図り、良好な関係を構築 ・子ども理解や支援教育の視点等、子どもや保護者に寄り添う視点を明確にするとともに、教職員が共通認識できる機会を設定 ・サービス管理に係る不祥事防止に向けた研修や発信等実施
② 「キャリアステージに応じた人材育成」	管理職選考及び三部会部長等ミドルリーダーの育成	・個々キャリアステージに応じた役割や業務内容について、振り返る場を設定 ・学級から学年、学校、そして市全体を俯瞰した取組みが意識できる資質の育成に向け、校長発信資料で啓発
③ 「持続可能な指導体制の整備」	③A 28H/月以内 ③B 70%以上 ※肯定回答	・ブロック長会議や職員会議を筆頭に組織化された会議の在り方を位置づけ ・各会議を効率的かつ効果的に運営できるよう研究 ・校務支援PCやICT機器の活用による業務時間の短縮

目標設定区分4 『地域連携と渉外』		
A 今年度の成果目標	達成基準 (各種調査、アンケート等)	
<p>小中連携・一貫教育を基軸とし、地域コミュニティづくりの推進を図る。</p> <p>① 「家庭・地域・学校の連携、協働の推進」</p> <p>四條畷中学校区学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の深化と充実を図り、本会が主体となった取組みを展開</p> <p>P T A 活動や地域諸団体と連携した取組みを通して、家庭教育支援の充実に努める。</p>	<p>① 四條畷中学校及び四條畷小学校と連携し、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)について、学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行い、学校運営協議会の円滑な運営を図る。</p> <p>② 学校自己診断等 児童保護者教職員アンケート(3学期分) A(保)(児)(教)「中学校区の取組みやP T A行事、地域行事への参画」に関する質問(新設)</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
① 「家庭・地域・学校の連携、協働の推進」	A 学校だよりやHPでの紹介3回以上 B 保 80%以上 児 80%以上 教 90%以上 ※肯定回答	・学校だより等を通して、保護者や地域への発信を行う。 ・外国語等中心に中学校教員による授業を実施する。 ・学校、P T A、地域行事について、小中連携を意識した取組みを行う。 ・家庭教育の充実に向け、周知啓発を行う。 ・S CやS S W、教育支援センター、フリールームなわて、市役所関係部局及び外部機関等の協力を得た保護者啓発事業の実施